

文化・芸術



「玩具」

1957年、油彩、板
32・0cm×41・5cm
(公益社団法人糖業協会蔵)

熊谷守一 (1880~1977年)

第2章「テーブルの静物のささやき」から。静物画は、ヨーロッパ絵画の歴史では、テーブルの上にあふれるほどの食材をならべて「豊穰(ほうじょう)さ」を表現した絵画とされていま

す。熊谷守一の「玩具」をみると、きつと子どもたちが使っていたおもちゃを並べて描いたのでしょうが、なんと

もおもちゃたちが無邪気におしゃべりをしていようなほのぼのとした楽しさが伝わって現、構図等にわたり造形的な実験の題材とも

〈名画の扉〉

大川美術館企画展「松本竣介《街》と昭和モダン展—糖業協会と大川美術館のコレクションによる」から

(田中)